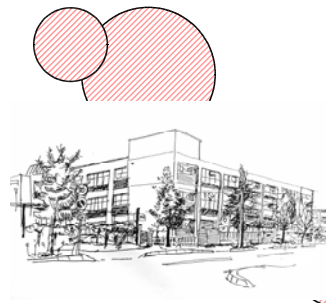


明星中学校だより

知と和と粘り



〒 070-0025 旭川市東5条1丁目

Tel 0166-26-0468

Fax26-0469

E-mail: myojyo@myojyo.jhs.asahikawa-hkd.ed.jp

■発行責任者

校長

増茂

薫

■発行日

平成23年8月29日

◇第7号◇

夏休み自主学習&体力増進プログラム



苦手教科克服に向けた家庭学習サポートを目的として、「夏休み学習会」を実施しました。二日間で5教科全学年47コマ（1年生…16コマ，2年生…18コマ，3年生…13コマ）を開設したところ、のべ351人から申込があり、どの教室も扇風機フル回転の中、熱気とやる気に満ちた1コマ＝50分の学習支援が展開されました。1年の理科に参加したN君は「とてもわかりやすい」とコメントして笑顔で下校しました。先生方も、少人数で生徒との距離感も近い感じのゆっくりペースでした。

日	学習会（5教科）		体力増進プログラム	
	8/25(木)	8/26(金)	8/25(木)	8/26(金)
1年生	65	80	12	8
2年生	62	65	7	14
3年生	44	35	4	4
小計	171	180	23	26
合計	351人		49人	

また、5教科とは別に午後からは、健康の保持増進のための実践力の育成と体力向上を目的として「健康・体力増進プログラム」も開設。二日間で、のべ49人が参加しました。異学年を一斉に、3人の先生方（大熊先生、藤原先生、石津先生）で指導しました。リズム運動や組体操などに大粒の汗を流しました。「〇〇人のグループになりなさい」という指示にパッと応え、楽しく運動に取り組んでいる様子には、TVゲームでは得られない爽快感がほとばしっていました。

全校のべ400人参加

七月二十日、本校の三階パソコン室で、市長との対話集会が開催されました。三年生六名、二年生四名が参加し、一時間程度の限られた時間ではありましたが、西川市長との対話が和やかな雰囲気で行われました。市長が司会を務める形でスタートした対話集会は、最初は全員の自己紹介を兼ねた将来の夢を語る時間となりました。一級建築士になって親に感謝の気持ちを表したい、グラフィックデザイナーになって今度は自分が夢を届ける側になりたいといった子どもたちの夢に、市長が一人一人にアドバイスを贈ってくれました。そして、質問コーナーではさらに子どもと市長との距離が縮まったかの様に笑いの絶えない会話が続きました。七月の給食の献立表の中で一番食べてみたいメニューは？という質問には、夏野菜カレーが食べたいと答えておられました。また、どんな中学生でしたか？どうすれば市長になれるか？という質問に対しては、中学校で頑張ることが今の人生に大きな成果を与えてくれると話されていました。パイロットの職を辞めてついで市長という職業のやりがいについて、真摯に語っておられました。最後に全員で記念写真を撮って、対話集会は終わりました。参加した子どもたちは短い時間ではありましたが、貴重な体験ができたことを喜んでいました。（文責 高綱）



市長との対話集会

8月19日（金）1校時、いじめの根絶はもとより、自他を大切に思いやりの心などを育て、人権意識の高揚を目的に、「人権を考える集会」が本校体育館にて開催されました。例年、外部講師を招いて実施している本集会ですが、今回は、三人の先生が全校生徒に講話する機会を設定しました。「数学の先生は、数学しか知らないはず」と私（筆者＝上中）も、中学の先生を見ていました。普段の授業とは違った側面から、先生のバックグラウンドが知れたようです。

技術家庭科の村田先生…「人を思いやる気持ちがあっても、行動に移すことができない、気持ちを伝えることはできない。勇気を出して、一歩前へ。」『村祭りの酒』は、自分一人くらいの気持ちが意外な結末になる具体例を示してくれました。

保健体育科の石津先生…「ウラ校則」の存在が学校生活を息苦しさ、様々な問題行動を生み出す原因になっていた前任校での熱い闘いを語ってくれました。「自分がやった（やってしまった）ことは、（良いことも悪いことも）自分に返ってくる」と。



身近な先生 人権を訴える



美術科の加藤先生…相手のことを思いやること、自分とは違う他人の存在を認めることが、人権尊重の意味であることを強調されました。金子みすずの詩、ウサギと亀の競走を例えにして、生徒に指名し問答しながらの講話でした。

■発行責任者

校長

増茂

薫

■発行日

平成23年8月29日

◇第7号◇

